宝珠山 如意寺だより 春号 No.25

(令和２年４月１日発行)

※バックナンバーはＨＰで閲覧できます。

《珠山千年石の庭》

大改修なる！

庭園入り口に、微笑みのやさしい野仏風の「つつじ観音」をお祀りしました。また、旧如意寺観音山の石段を使った石道の最奥に、観音山山頂におられた如意寺鎮守を「白山権現」を祭祀。中ほどの広場は旧境内あたりの位置でしょうか。「ミニ観音山」になりました。

流れる水の音や山野草を楽しみながらご散策、ご休憩ください。

みつばつつじ山の登山口にもなります。

作庭の監修は伝統ある「御庭植治㈱」次期十二代小川勝章様（京都市）、作庭は峰山庭園様（京丹後市）です。右記の「花法要」に参列されます。

関西花の寺二十五ヶ所霊場会

第二十三回 花法要 於 如意寺

◇法要と式典　午前十時半～午後十二時半頃

法話や京都の伝統庭師様のお話もあります。

この間、本堂でも境内でもご自由にご参拝ください。

◇津軽三味線〈花法要バージョン〉演奏

正午からです。

◇紅白祝い餅配布

午後十二時二十分頃（先着三百名様）

◇午後十二時半頃、本堂裏の「珠山千年石の庭」で子供さん達にお花を植えていただきます。励ましてあげてください。

※『花法要』は、年一回、いずれかの札所に全寺院が集会し、この自然の中で生かされていることに感謝し、人々の幸せと安寧を祈る催しです。ご参加自由ですので、またとないこの機会に是非お参りください。

新型コロナウイルス感染防止の為、延期となる場合もあります。詳しくはお電話かＨＰにてご確認ください。

住職の著書、好評発売中！

『花寺和尚の苦を楽に生きる！』

佼正出版社

￥1.500+税

法話の会

春の法話の会

4月1日（水）

午後1時半より 約30分

秋の法話の会

10月25日（日）

午前10時より 約30分

写経の会

5月	1日（金）	
6月	1日（月）	7日（日）
7月	1日（水）	5日（日）
8月	1日（土）	
9月	1日（火）	6日（日）

＊ひと月に2回ある場合はどちらか1回にご参加ください。

お気軽にご参加ください。筆ペンは寺で用意します。一回千円

花暦

近隣施設の 春の行事

◇和久傳の森　『檜本 平家物語』がスタート

３月１１日～６月８日　安野光雅美術館

TEL：0772-84-9901

◇「坂東玉三郎 京丹後特別舞踊公演」

５月９日(土)、１０日(日)

お問い合わせは、丹後文化会館(京丹後市)

TEL：0772-62-5200

チケットにつきましては如意寺でもお取り継ぎします。

◇豪商稲葉本家　TEL：0772-82-2356

こいのぼり・武者人形祭　４月25日～５月24日

七夕祭　６月20日～７月12日

がんばっている人は「ほとけ様」です

「座れば座っただけ仏」なら、「お念仏やご宝号をお唱(とな)えしたらお唱えしただけ仏」であり、巡礼の道を「歩いたら歩いただけ仏」です。生徒にわかるようにと一生懸命教えている先生も仏です。どうすれば人に喜ばれる商品ができるかと、日々努力している若い研究者も仏です。サックサックと草を刈り進む農夫の作業も、人・鎌・草が一体となった仏の営みです。朝早くから、「今日もがんばるぞ」と仕事に向かうサラリーマンも、アルバイトの若者も、這い々々している赤ちゃんも、みんな仏です。「我を忘れているとき」がいちばん美しいのです。そう、仏さまは、「自分のこと」なんてこれっぽっちも考えておられません。なぜなら、「自分」とか「自我」とかどこにもないのですから。**「自分」とは、日々新しく作り上げていく「今の自分」です。**仕事でも、スポーツでも、熱唱している歌手でも、ボランティアでも、懸命なその姿を見て感動するのは、そこに仏の姿を見るからではないでしょうか。

＜注：ご宝号＝南無大師遍照金剛＞　　住職著書『苦を樂に生きる』＜佼成出版社＞

※　当寺からも税・送料無料でお送りします。本代1500円の振替用紙を同封します。
最寄りの書店、楽天、アマゾンでもご注文ください。好評につき二刷です。

如意寺の歴史⑯　〔江戸時代〕　《その１》

『江戸時代の久美浜と如意寺』

江戸時代に入ると、久美浜は峰山藩（京極家）に属した。応永年間（1500年前後）の戦火で伽藍の多くを消失した如意寺も復興しつつあった。再興への仕切り直しを「中興」という。現住職は中興二十二世だが、一世は徳川二代将軍秀忠の時代であり、この後の住職名はすべて記録がある。また、久美浜の名家「稲葉家」の先祖は、尾張の織田信長の家来であり、戦国期、やがて細川家家臣となる松井康之に従ってこの地に移った。麹屋の他、秀吉のお墨付きをもらい千石船による商いもするなど、その後も久美浜に大きく貢献する豪商へと発展した。江戸時代中期（1731〈享保16〉）になると、海上交通（千石船）の要衝とされた久美浜に代官所が置かれ、藩を離れて天領（幕府直轄地）となった。以来、明治維新までの137年間に31人の代官が江戸などから赴任した。18代の野村権九郎（1789・寛政元年から11年間）、19代塩谷大四郎（1800・寛政12年から13年間）の二人の在任期間が最も長かった。この二人は善政を行ったとの記録があり、如意寺の記録にも名前が現れる。久美浜代官所の支配地はこの時期に最大となった。寛政11年の記録によれば、丹後（加佐～丹後の全郡）、但馬（二方、気多、養父、城崎の各郡）、美作（吉野郡）で、計227村、6万3千石であった。この中心部の久美浜村を中心とした直轄行政だった（『代官塩谷大四郎資料編』P.273）。この塩谷代官は48歳で豊後、豊前、日向の天領の日田代官となった。第一の功績は広範な土木事業であった。彼はこれらの工事の総指揮を広瀬久兵衛など土地の実力者にあたらせた。日田行きを命じられた彼は、久美浜代官所時代に知りえた如意寺所蔵の『家康文書』を、困難が待ち受けるはずの日田での協力者への「土産物」として携えた、というのが研究者の方々の推測である。協力者達を動かす最有力人物は松井家であることは想像にかたくない。

次回は“江戸時代後半の如意寺”に絞ります。

ことば

◎　「今、生きている」とつぶやこう。元気が出る。
◎　「反省はするが後悔はしない。自分を信じ抜く」　（本因坊井山裕太・三冠）
◎　「臆病者は何度も死ぬが、勇者は一回きりだ」（映画「新・荒野の七人」）

ちょっとひと息

◎　山梨県の女子中学生は、苦手なミシンで60枚のマスク（大人用と子ども用）を作って県に寄付しました。諸々の必要経費８万円は使わずに貯めていたお年玉でした。（ニュースより）
◎　車のナビは優しいです。こちらが間違えても絶対に怒らず、“次の道”を教えてくれます。